

# 神納地域まちづくり新聞

アンケート  
特集号

発行：神納地域まちづくり協議会 令和6年3月15日 第29号

中学生  
以上

## 全住民アンケート分析レポート(概要版) 神納地域版

### 神納地域まちづくり協議会 会長挨拶

協議会の各事業においては、地域の皆様からのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、まちづくり協議会は平成24年に設立し今年度で12年目を迎えております。当地域でも急速な人口減少、少子高齢化になかなか歯止めがかからない状況が依然続いております。そんな中子どもは昨年中学生以上の全住民を対象にアンケート調査を実施しました。

アンケート配付数1,359通に対し有効回答が1,232通 回答率が90.7%と非常に高い結果でありました。地域の皆様にはご協力を頂いたことに改めて感謝いたします。

結果につきましては内容をご確認頂き、当地域の年代毎の思いや、様々な課題について共有頂ければ幸いです。

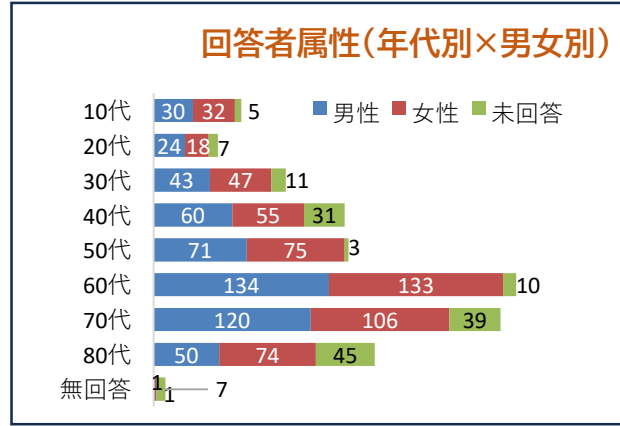
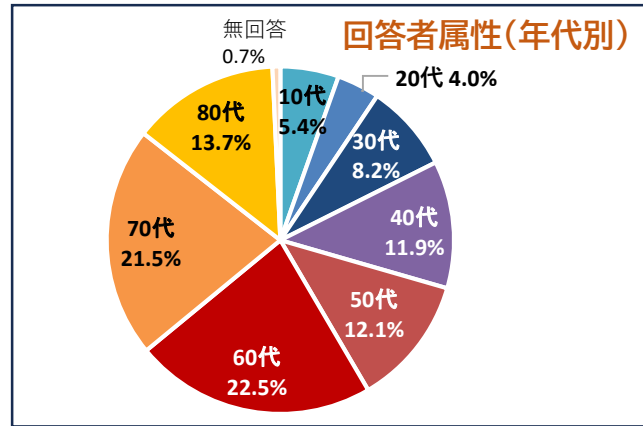
まちづくり協議会ではこのアンケート調査を踏まえた上で、今後の事業に生かし取組んで参りたいと思います。

地域の皆様におかれましては、今まで以上のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

神納地域まちづくり協議会 会長 小田 徹

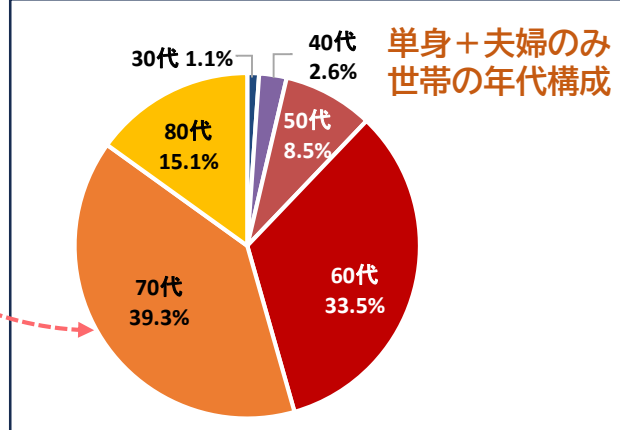
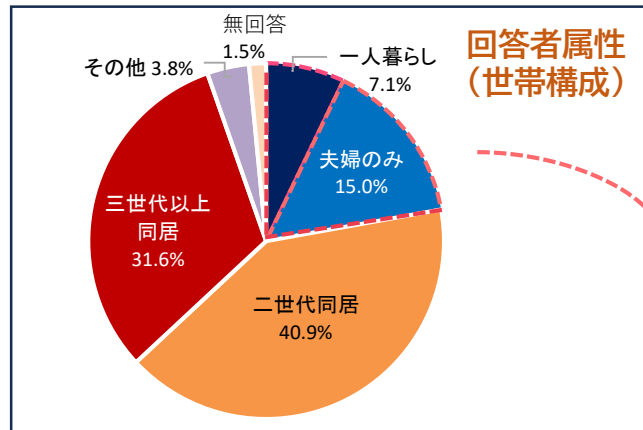
実施時期 : 2023年6月  
配布数 : 1,359通  
有効回答数 : 1,232通  
有効回答率 : 90.7%

昨年6月に実施した神納地域の中学生以上全住民を対象としたアンケートの調査結果です。  
ご協力ありがとうございました!



### ★アンケート結果について★

結果は数を比較するのではなく、年代別の回答割合を比較し、世代間の意識の違いを浮かびあがらせています。



単身+夫婦のみ世帯の年代構成をみると……単身及び夫婦のみ世帯の87.9%が60代以上

単身+夫婦のみ世帯の

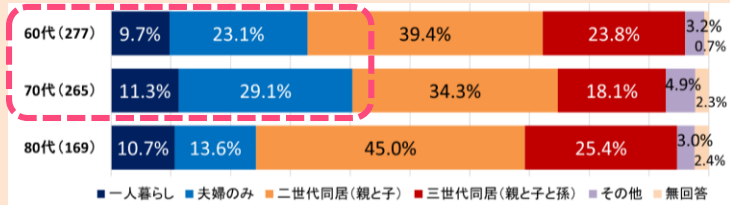
**大半が高齢世帯!**

家族で担っていたことが、この先難しくなる可能性がある

①

60~70代の3~4割は単身もしくは夫婦のみ世帯

※括弧内の数値は回答者数

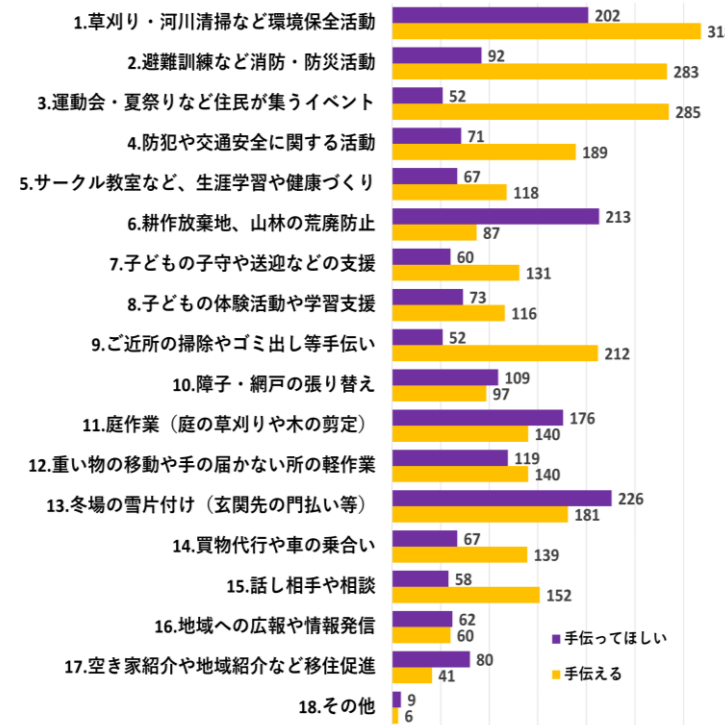


Q これからの将来を見据えてこの地域の地域づくりにおいて大切だと思うものは?

★トップ3★

- ①子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にする
- ②車の運転をしなくても、家族に負担を掛けずに安心して外出・移動できる地域にする
- ③思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする

### 手伝ってほしい/手伝えること



Q 地域内で手伝ってほしいこと 手伝えることはなんですか?

大半の作業項目で

手伝ってほしい<手伝える

共助の担い手となる住民は潜在的にかなりの人数がいる!  
お互いさまで暮らしを支え合う仕組みを構築できれば、住民同士での共助が成立する土壌はある!

### まちづくり協議会に対する期待・要望・ご意見

- ・集落内の課題解決(農業、困り事など)を1人に頼り、負担が大きいため、全体でやっていけるよう、少しでも負担が少なくなるような対策をとってほしい。(30代女性)
- ・各集落に区役員として「女性」を登用する流れを作りたい。女性の声が反映されない男ばかりの総会では集落の発展はないと思う。(60代男性)
- ・まちづくり協議会で福祉的な活動も行っていった方がよい。(60代女性)
- ・ひとり暮らしなどの高齢者に対して除雪などの手伝いなど集落で手伝ってやって欲しい。(60代女性)
- ・それぞれの地域で一所懸命取組んでいることに感謝しています。(80代以上女性)

分析レポートはいかがでしたか? 調査結果は35ページにも及ぶレポートになったため今回は、皆さんへ「特に知っていただきたいポイント」をピックアップしてお伝えしました。人口減少がさらに進む将来を見据え、地域の営みを持続可能なものとするためには、これまでのやり方や活動内容を見直し、負担軽減を図っていくことが不可欠です。そして困難とも思える地域課題解決の中に楽しみをみつけ活動していくことが大切なのではないでしょうか。「楽しい・うれしい・面白い」これらを追求しながら前向きにチャレンジする。その積み重ねから今の時代を生き抜く知恵とエネルギーが生まれてくるのではないのでしょうか。

下記QRコードから神納地域まちづくり協議会ホームページの「中学生以上全住民アンケート調査結果」をご覧ください。



④



Q この地域へ愛着がありますか？

地域全体では6割以上が「地域に愛着がある」



- ▶ 10代女性・20代男性は前回調査(H29)よりも愛着度は高い
- ▶ 若年層の愛着度は微増している一方、50代女性は大幅に低下している

Q 今後もこの地域に住み続けたいと思いますか？

「この地域に住み続けたい」は地域全体では6割以上

- ▶ 10代と20～50代女性の定住意向は3～4割と低い。ただし「わからない」も4割以上
- ▶ 前回調査(H29)に比べ、10・20代の定住意向は微増しているが、30～50代女性は低下(特に50代女性は大幅減)

Q 自分の子どもにもこの地域に住み続けてほしいと思いますか？

「自分の子どもにも住み続けてほしい」は地域全体で4割以上

- ▶ 10～40代・50代女性は「住み続けてほしい」が2～3割と低い。「わからない」が4～5割
- ▶ 20・40・50代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多い
- ▶ 前回調査(H29)に比べ、すべての年代で子どもへの定住希望が低下している

「わからない」が多いということはこれからの取り組み次第！

愛着があっても定住意向が低のは将来への希望・安心感が足りていないことが要因！？



Q この地域での日々の暮らしで心配なこと不安に感じていること

★トップ5★

- ① 自分自身の健康面
- ② 屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪
- ③ 空き家が増えて管理が行き届かなくなる
- ④ 農業を営む環境(担い手を含む)や農地・山林の維持管理
- ⑤ 災害への備えや避難など防災・安全



◀特定の年代で不安が大きい項目▶  
 【10代】進学・就職 【10～40代】災害への備え・安定した収入 【20～50代】親の介護  
 【70代】車の運転 【80代】交通手段

年代により心配ごとはちがうが地域の暮らし・営みを持続可能なものとするための取り組み・将来への備えが、強く求められている

Q 地域活動に関心がありますか？

4割以上が関心の有無に関わらず地域活動に参加している

- ▶ 「関心あり+不参加」はどの年代でも3～5割いる
- ▶ 20代女性は「関心なし+不参加」が6割近く
- ▶ 前回調査(H29)と比較すると全体的に参加率は微増。20代女性・50代女性は「関心なし+不参加」の割合が上昇

Q 休日はいつですか？

20代～50代の働いている世代

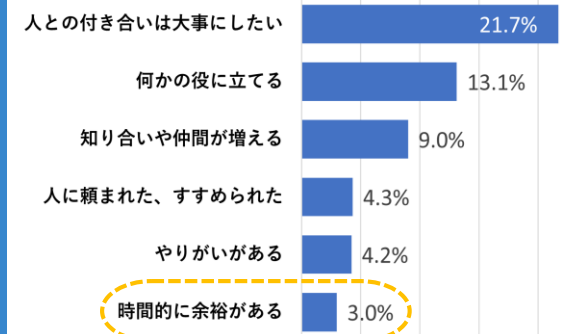


土曜日が毎週休み 約1/3  
日曜日が毎週休み 6～7割

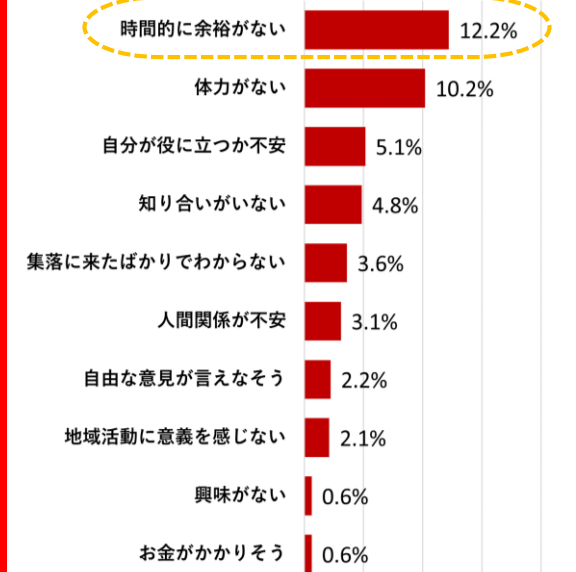
- ▶ 20代は週末が休みなのは1/3

地域活動への関心(回答理由)

参加している人の理由



参加していない人の理由



※回答総数に対するの回答割合(割合が高いほど、多くの方が〇を付けている)で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。

必ずしも、時間に余裕があるから参加している訳ではない。働いている世代は必ずしも土日が休みではない。多様な参加の方法・工夫・配慮が必要。



Q 集落内・地区内に家族以外で相談相手はいますか？

集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいる

- ▶ 10代は5～6割、20代は7～8割が集落内に相談相手がいらない
- ▶ 20代は約半数が地区内にも相談相手がいらない



若年層のコミュニケーション機会のあり方・頻度を考えていく必要があるのでは？

